

東北地方・太平洋沖地震対策本部ニュース

2011年3月16日(水) 14時15分 No.11

おだわら診療所の状況報告が届きました。

14日(月)からは、制限をして外来診療を続けています。

健診は、年度内、次回にお願いしています。処方箋は、医薬品の輸送経路が確保されている保証が無いため、2週間投与で対応しています。患者さんの送迎は、交通渋滞や給油が困難のため、今週末まで中止です。14日の夜間診療は、中止しました。訪問診療は、従来通り、続けていますが、給油に苦労しています。運転手の宮下さんには、40分以上もガソリンスタンドに並んで給油してもらっています。照明や暖房も節電のため、最低限度にしています。小田急小田原線が動かないので、所長、糸永さん、田中は、通勤に苦労しています。

15日(火)から、カンパ活動を始めました。組合員さん患者さんや職員からカンパが寄せられています。昨日、夜、22時30分頃、神奈川県西部で地震がありました。職員は、みんな、たくましい人たちばかりなので、大丈夫でした。計画停電も、小田原地域では実施されていません。

19日(土)糖尿外来の医師は、通勤電車の都合により、来院できない可能性があるため、金曜日のお昼の時点で、勝又所長と相談して判断することになりました。

多くの方から、わかめ・こんぶを販売をしている気仙沼に対する心配の声が寄せられています。

朝礼は、所長の「緊急震災対策委員会を始めます！」という掛け声とともにスタートします。基本的には、みんな、元気です！

事務長 田中広志

「無計画停電」にも負けず、がんばっています!



非常用電源が照らす
リネン庫

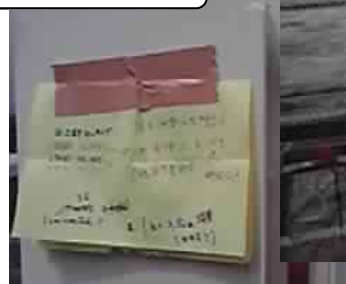


昨日夜の地震で崩れた病室の壁

戸塚病院



屋上にある非常用電源のための軽油タンク(右)と使用量を
をチェックする用紙(中央)、補充用ポリタンク・缶(左)



東北地方・太平洋沖地震対策本部ニュース

2011年3月17日(木) 9時10分 No.12

現地への第2次支援隊 18日出発!

— 栗山看護師長・橋本 PT・星組織部員 —

支援物資がある事業所は、今日中に本部までお願いします。

間に合わない場合は、次の支援隊が届けることとします。

主な支援物資

- * 非常食 非常用おかゆ・水やお湯でできるごはん
缶詰(おかず、果物)・レトルト調理済品
- * 医療材料 点滴セット・ガーゼ・酒精綿・マスク・ガウン
注射針などディスプレイ関係
- * カセットコンロとボンベ
- * 毛布、携帯カイロ、紙おむつ
- * 飲料水

島田さんより佐々木副総看護師長にメールが届きました。「被災地はとうとう本格的な雪になってしまいました。かなりつもり始めてます。私は今日明けて21時から入りです。なので、多分18日には帰れると思うので、20日の戸塚病院の夜勤は行けると思います。」



停電中の本部



給油の列に並ぶ組織部と
戸塚診の車



組合員向け募金袋を
作る組織部員

各診療所へ…

戸塚病院の薬剤在庫が、不安定な供給によって、一部少なくなっています。急な発注をされても、応えられない場合がありますので、早めの発注をお願い致します。

— 戸塚病院 薬局 —

東北地方・太平洋沖地震対策本部ニュース

2011年3月18日(金) 11時20分 No.13

現地への第2次支援隊 今朝出発！

一栗山看護師長・橋本 PT・星組織部員一



第2回支援物資

- ・ 紙おむつ 30枚入り2個、24枚入り3個 ・尿取りパッド 30枚入り1個
- ・ はくパンツ 30枚入り1個、18枚入り1個
- ・ 小児用はくパンツ 30枚入り1個 ・小児用おむつ 78枚入り1袋
- ・ 赤ちゃんおしりふき 生理パッド6袋 ・ ガスボンベ4個
- ・ カイロ (大60個、小50個、靴下用15足)
- ・ 毛布3枚 ・綿入り敷きパッド2枚 タオル30枚+11枚
- ・ 紳士用(長ズボン下2枚、ランニング4枚、長そでシャツ16枚、靴下7足)
- ・ 婦人用(パンツ10枚、シャツ6枚、) ・ヨガマット1枚
- ・ 男児用パンツ5枚、女児パンツ5枚、子供シャツ3枚
- ・ アルコールタオル2個 ティッシュペーパー25箱 ・トイレトペーパー100ロール
- ・ インフルエンザ看護6個 ・ポケットコート9個
- ・ デンタルリンス1本 ・清拭料2本 ・ドライシャンプー3本
- ・ 粥2個 ・砂糖3kg ・塩4kg ・しょうゆ1.8ℓ 2本 ・みそ3kg
- ・ 米10kg ウェス2箱 マスク段ボール1箱 (ファルマさがみより)



介護事業所の近況が届きました。

訪問車のガソリン確保のために職員間でガソリンスタンドの状況を連絡しあいガソリンの補充をおこなっています。一時間以上待つことが多く職員の休憩を削っての対応となっています。可能なところは出来る限り、自転車や歩いての訪問としています。

いつまで続くのか…。

- ・ 訪問介護の現場では「電磁調理器」が停電で使えないことがあり、対応に苦慮しています。
- ・ 昼間一人の方のお家で停電し、エアコンの復旧をご本人ができないため息子様が帰宅までの時間寒い中を過ごしていました。
- ・ 職員間や利用者との連絡が(停電のため)電話連絡が取れず四苦八苦しています。
- ・ 移動手段が車なので、地域によって信号が消えており、通常より慎重な運転を必要とされています。

介護福祉部 副部長 本内

東北地方・太平洋沖地震対策本部ニュース

2011年3月18日(金) 14時10分

No.14

『災害の前では1人では何も出来ないが、
人との繋がりが何よりも支えになり力になる！』

東北・関東大地震 第1次支援隊報告(3/14~17)

本部組織部 倉崎 良太

坂総合病院内は沢山の救援物資と各県連からの支援スタッフ、現地病院のスタッフで溢れかえっていました。本部で受付を済ませ物資の引渡し、支援行動の配置等の軽い打ち合わせをしました。病院内での主の動きはトリアージの色を分ける受付、トリアージ色別の処置室、入院病棟、支援物資に仕分けと分けられていました。

その中で私は赤トリアージ患者処置室での患者の容態や入院病棟等の記録、検体を運ぶ「メッセンジャー」という仕事へ割り振られました。

そこでは容態が思わしくない急患の方が運び込まれ、医師・看護師の方々が迅速な処置を行っていきました。11日~12日津波の影響で低体温や打撲、裂傷などの症状での患者が多く、私達が対応していた14日~16日は意識障害・呼吸障害等の症状で搬送される患者が多かったです。そこでは残念ながら、亡くなってしまった患者の方もいました。

搬送されるペースも昼から夕方が多く、一気に3人搬送された時もありました。なるべく、医師・看護師の作業が妨げにならないようにと心掛けました。自分自身、組織部ということで元気で健康な方と行動している事が多く、今回のような生死の間

際での現場は初めてでした。改めて自分が医療従事者であることを感じました。

最終日は出発の前に多賀城市の周辺を散策しました。多賀城市は先日、工業地帯でコンビナート火災があり、塩釜港からの津波の影響で車やコンテナ、資材が道を塞ぎ、スーパーやGS、給水場では沢山の人が並び、自然災害の恐ろしさを肌で感じました。また、街全体が「復興」というよりも「今」を何とか繋いで生活をしていました。

災害の前では1人では何も出来ないという事、色んな人との繋がりが何よりも支えになり力になる事だと思いました。



停電時のセコムの対応について

- ・ 停電時は、セコムをかけずに、カギのみの施錠とする。
 - ・ 不在時に停電となった場合、異常音を発することがある。その場合はセコム側で解除するが、すぐには行けない状況である。
- ⇒ 夜間など異常音が鳴り続けることがあるので、ご近所に一言断っておきましょう。

義援金到達 337,895 円

民医連はすごい！ 現地支援レポート（1/3に抜粋）

戸塚病院 看護師 島田みのりさん

病院に到着後は現地の看護スタッフの指示でそれぞれのシフトにつく。9時～21時と21時～9時の二交代勤務。外来支援はトリアージブースで、患者を医師が赤、黄色、緑、黒に分ける。私は黄色ブースの夜勤に入った。

夜間来院する患者が多かったのは熱発の乳児や幼児、喘息発作の子供、骨折や脱水の高齢者。避難所で転倒しての骨折や食事が一日おにぎりひとつで脱水になった高齢者もいた。私の名札をみて、「神奈川県から来たの？親御さんは心配してない？」と気遣って下さる患者さんもいた。余震はまだ大きいものもあり、その度にお母さんが不安そうにお子さんの手を握っているのに、とても心が痛んだ。

17日午前中は塩竈市立第三中学校の避難所へ医療訪問に出かけた。

避難所は、体育館に170名ほどの避難者がいた。男性は自宅の掃除にいらしている方が多いとのこと、高齢者や子供が多かった。避難所ではやはり健康不安を抱える人も多く、医療者がきてくれてほっとしたということを書いてくださる方も沢山いた。避難所でも徐々にインフルエンザなどの感染症が発症しているようです。避難所はトイレが和式であったり、行くまでに段差があったりと足腰の悪い高齢者にはかなり辛いのだと話す方もいた。また、暖房機はほとんどなく、唯一の石油ストーブは、その避難所で一番小さな赤ちゃんを抱える家族のところに置かれていた。



坂総合病院の看護師長さんは「民医連は本当にすごい。支援の人材派遣も早いし、食料や支援物資も沢山来る。来てくれた支援者の方々も意欲的で自分から動いてくれている」としみじみおっしゃっていた。今回の支援で看護師として様々なことを学ばせていただいた。本当に行って良かったと思う。職場の皆さん、ありがとうございます。

意思統一よ～し、出発



ヘルメット
よ～し

募金箱
持ちました

笑顔も
OK

第3次支援隊

3/22に出発！

小玉師長（藤沢診）

小林事務長（戸塚診）

鈴木武さん（本部）

『東日本大震災』対策本部ニュース

2011年3月22日(火) 10時30分

No.16

義援金到達 450,000円



長靴 よ～し!

第3次支援隊

今朝 出発!

— 小林弘恵事務長・小玉春美師長・鈴木武紘経理事務 —

現地支援レポート③

支援の手はまだまだ必要である! 齋藤彰久(3/14~17)

少し、小高い場所に坂総合病院は位置し、12時間勤務2交代制の24時間体制を維持し、地域の救急受け入れの医療機関として機能していました。全国からの支援も多数入り、駐車場は様々の地域のナンバープレートで埋め尽くされていました。災害対策本部は2階に位置し、常にプロジェクターでテレビ映像が映し出され、様々な情報が掲示されていました。朝の8時30分と夕方17時に全体会議が開催され、現状の報告と確認、支援に入った県連が紹介されると一斉に大きな拍手が「民医連」が大きな「絆」で結ばれていることを実感しました。支援物資も順次仕分けされ、廊下に並んでいました。

坂総合病院は救急指定の医療機関として入口にてトリアージされ、緑・黄・赤・黒にそれぞれ分けられ、各ブースで対応する動きになっており、一般外来(慢性疾患の処方)は近隣のクリニックにて行われていました。私たちは黄色ブース(島田)、赤ブース(倉崎・齋藤)に分かれて看護師としての業務と事務は「メッセンジャー」と総称され、血液等の検体を検査室に運んだり、家族から基礎データ(生年月日・住所等)を聞き出したり、入院が必要となった患者さんを病棟まで搬送したりすることが主な任務となりました。

◆倉崎・齋藤の主な動き

15日9時~14時(赤ブース)

14時~20時(休憩)

20時~16日14時(赤ブース)

13時~19時(休憩→被災地を歩く) 19時~22時(赤ブース)

17日9時~12時(被災地を歩く)

赤ブースでは支援中およそ30の方が運ばれ、残念ながらその場で死亡確認がされた方が2名いらっしゃいました。震災発生から17日の正午まで103の方が赤ブースに運ばれていました。主訴も時間が追うごとに変化し、発生当初は「低体温状態」の患者さんが多く、残念ながら亡くなられる方が多い状況から小児の「てんかん」やPTSD、避難所からの高齢者の「意識消失」等、職員の話によると疾患は日常の受け入れ状態に戻ってはいるが、明らかに震災が原因しての疾患であるとの言葉がありました。

全国からの支援者は支援者用に開放されたデイサービス室を利用し休憩や仮眠がとれる状態でした。17日午後1時に現地を出発し、福島原発を気にしながら東北道を走り、午後7時30分に無事に戸塚診療所に到着しました。現地の任務は常に変化をしますと思われる。これからは地域活動が中心になると思います。支援の手はまだまだ必要であることを実感し、帰路につきました。



支援先の坂総合病院

『東日本大震災』対策本部ニュース

2011年3月22日(火) 11時40分

No.17

義援金到達 563,960 円

茅ヶ崎ブロック 高校生に励まされながら… 1時間で10万円の募金が…

／平塚ブロックも社保協と統一募金活動／



茅ヶ崎ブロック

3/20(日) 11:00~12:00 ヨーカドー前
組合員12名、職員2名、募金103,637円

茅ヶ崎にある高校生たちが集まってデッキで頑張っていたので、元気ができました。

平塚ブロック(平塚社保協の統一行動)

3/20(日) 11:00~12:00 平塚駅北口

組合員10名、職員2名、社保協全体で28名



藤沢診療所 菅原事務長より

停電対応に追われています。設備面では断水、電話不通となるので検査、健診のキャンセル対応。計画停電になると小田急の運休で来れない医師もいるので、代診手配など、あと、薬の入荷が遅れています。

今度、診療所の建設あれば1・2階は給水ポンプを使わず、直結配管ですね。それから、電話は最低アナログを1回線のこしておくことなど、いろいろ考えさせられました。

第3次支援物資

- ・サージカルマスク 50枚×40
- ・ティシュペーパー25箱
- ・トイレットペーパー60ロール
- ・紙おむつ 26枚×2、
- ・ウェットティッシュ 10個
- ・45リットルゴミ袋 10枚×10
- ・インスタントコーヒー6本
- ・小児用パンツ 34枚×1、38枚×1、54枚×1
- ・赤ちゃん用おしりふき 8個
- ・マスク 50枚×28個 (さくらんぼ薬局)
- ・紙おむつ 50枚、フラットタイプ 30枚×3
- ・リハビリパンツ 11枚×4、10枚×1、20枚×1、30枚×1、18枚×1

『東日本大震災』対策本部ニュース

2011年3月24日(木) 9時00分

No.18

義援金到達 714,028 円

第3次支援隊 小林事務長から第1報

<坂総合病院> トリアージ体制から 通常診療体制へ…



22日16時に到着しました。22日22時からトリアージ体制から通常診療体制へ移行するとのこと。電子カルテも稼働。避難所の中には今日から水が出た所もあり、家に帰れる人もいます。

22日は17県連が支援に到着しました。初日は打ち合わせのみ、いよいよ活動開始です。



夕方の打ち合わせ

<現地支援レポート④>

「民医連はひとつ」を実感！

深沢中央診療所
栗山晶子

初日は、夕方に到着。坂総合病院の対策本部を見学し、全国からの支援者が、坂総合病院の職員のようにきびきび活動しているのに驚きました。隣のクリニック7階に、寝泊りしている支援者とお話し、周辺の真っ暗な町並みを見下ろし、何が出来るのか不安と緊張を感じながら、熟睡。次の日、私だけ長町病院と指示され、鳥取の帰る車に乗せてもらい、津波に破壊された、町並み、車の長い列を見ながら移動しました。ガソリン、生活物資を買い求める被災者が気になりました。

津波被害の大きかった若林区の先に長町病院があります。隣にある、クリニックは築40年の5階建て、真ん中に大きな亀裂が入り、立ち入り禁止です。若林クリニックのある周辺の避難所を回り、被害にあった方の話や、津波に流され、4時間漂って、助けられ、昨日から足が痛み出したと見ると打撲擦り傷があり、腫れていました。眠れない、胃が痛むなどの訴えが増えて来ているようでした。これからの課題として、避難所や地域で、燃料不足もあり、受診できない人をどう支援していくかが議論され低増した。

長町病院は150床で、今回20床、災害緊急受け入れ病棟を5階のリハビリスペースに急遽作りました。神戸や、十勝、石川、長野の支援ナースが、交代で責任を持って24時間看護していました。そこで、在宅酸素、DMで要インシュリンの方、経管栄養、車椅子、聴覚、視覚障害があり、退院困難、介護者が被災、自宅が倒壊で、入院となった方々を、ベッドを入れ、カルテはないので、用紙をつくり、ケアしました。お互い休憩や、食事、仮眠を取りながら、神戸の震災の経験を聞きながら、にわかチームで看護してきました。こんな経験も貴重です。送り出していただき、貴重な体験をすることが出来ました、本当にありがとうございました。

第4次支援隊

3/26に出発！

高橋事務長（いずみ診）

荻生健診担当（戸塚病院）

倉内看護師（NS とつか）

小野塚介護福祉士（HS とつか）

『東日本大震災』対策本部ニュース

2011年3月24日(木) 10時40分

No.19

義援金到達 714,028 円

計画停電の運用が細分化されます

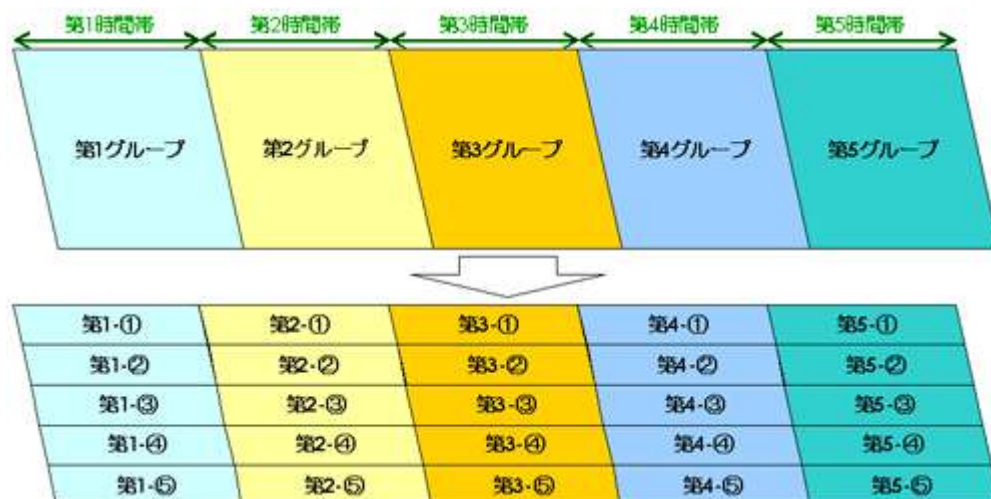
東京電力 プレスリリース 2011年3月23日 「[3月24日\(木\)以降の計画停電の実施予定等について](#)」より

計画停電の運用改善について ～グループの細分化等～

計画停電の運用については、現在、計画停電対象地域を第1グループから第5グループの5つのグループに区分し、グループ単位で計画停電の実施をお知らせしておりますが、今後は、今あるグループの中に、5つのサブグループを設け、グループの細分化を行います。（3月26日(土)実施目途）これまで、グループの全地域を停電させていただくケースと、グループの一部地域のみを停電させていただくケースがあり、お客さまにとって、正確な停電対象地域が分かりづらい面があったため、これを改善するものです。例えば、電力需給が逼迫している場合は、グループ単位で停電させていただきますが、春は電力需給逼迫が一時的に改善されるため、グループの一部に停電地域を限定するケースが増えると考えられ、今回、こうした見直しを行います。

グループの一部のみを停電させていただいた場合、次回は、停電しなかったお客さまから順番に停電させていただく等、不公平が生じないような取り扱いをいたします。

【グループ細分化のイメージ】



また、これにあわせ、計画停電の見通しについて、以下の例のような、お客さまによりきめ細かくお伝えする方法を導入する（3月26日(土)以降、グループ細分化の定着状況を見極めた上で実施）など、引き続き更なる運用改善に向けて努めてまいります。

【予報マーク(例)】

●	◐	○
・計画停電を実施予定	・計画停電を実施する可能性がある	・計画停電は実施しない

『東日本大震災』対策本部ニュース

2011年3月24日(木) 11時00分

No.20

義援金到達 714,028 円

第3次支援隊 小林事務長 現地レポート

「家を流された看護学生は、 震災後ずっと一緒に泊まって働いています。」



23日、小玉さんは4ヶ所の避難所訪問。水道の出ている所と出していない所で、食事に大きな差あり。また水道の復旧した地域では、避難所に昼間行っても人数が少なく、夕方から急に増える。鈴木さんは物資担当で、坂総合病院に続々届く物資を避難所へ届けています。これも避難所によって差があり、要求にマッチしていれば喜ばれるが…。とにかく時間差があるので、難しいようです。小林は支援者の受付でした。岩手の受け入れ準備が遅れているため、支援者が坂に集中。本日だけで100人近く到着しました。全日本の事務局は、徹夜で翌日の振り分け表を作っていますが、采配限界の様子です。人員が余っていると言えば余っていますが、それも今一時かもしれません。言われたように動くのみです。病院が通常診療体制になり、避難所にも民医連以外の支援が入って来ているので、次に進む時期なのでしょう。

坂総合病院の職員の様子です。水道が復旧していない地域の職員には、震災後病院にずっと泊まって勤務を続けている人もいます。私の隣で今眠っている方も、看護師で、これから深夜入りです。家を流された看護学生は、震災後ずっと支援者と一緒に泊まって、働いています。

25日の国資の発表を待って、坂総合病院の職員になる予定の奨学生です。本日、津波に流された訪問看護ステーションの職員の遺体が発見されたそうです。

支援者は夕方4時頃着で、翌日スタートが、現地事務局に迷惑かけないようです。病院内は電気、水道は不自由ないです。病院隣のクリニックに宿泊出来れば、寝袋さえ要りません。しかし、支援者が多く、クリニック以外の宿泊先になると寒いと思われれます。カップラーメンを食べるために電気ポットがあると便利です。今は他県連から借りて使っています。ケファールのようなやつがあると便利。

本日は、病院通常業務支援、避難所まわりに加え、地域の友の会会員訪問が始まりました。

うれしいニュースです！

わかめ・こんぶの「マルトモ水産(気仙沼市・千葉友治さん)」について、各所から安否を気遣う声が上がっていましたが、3/22 消息が分かりました。ご本人、ご家族ともに無事です。よかった！！



【組織部 長谷川さんが検索、電話連絡した経過】

消息情報サイト(グーグル パーソンファインダー)にて検索したところ、埼玉にお住まいの方で消息をつかんだ方がいました。仮にAさんとします。長谷川さんよりAさんに電話。以下、聞き取った内容。Aさんもマルトモ水産利用者で、安否について心配していたところ、お孫さんがこのサイトに情報を載せてくれて、それを見た方からの情報で安否が分かったとのこと。残念ながら仕事場は被害に遭われたようですが、「5月くらいには再開したい」とおっしゃっていたそうです。

サイトを見た他の利用者の方からは、「送金できなくて困ってました。今日郵便局に行きます。お困りの品物はありますか？」との書き込みがありました。情報を聞き付けた職員も早速お見舞いの書き込み。組合員、職員が、普段温かいつながりの中で利用しているマルトモ水産は、全国でも同じようなつながりづくりで活躍しているようです。 **頑張れマルトモ水産！**